

令和3年7月1日

シルバー宗像

第64号

会員数 632名 男性494名 女性138名 (令和3年6月1日現在)

(公社) 宗像市シルバー人材センター

宗像市赤間4丁目2-1 TEL:0940-33-1151



市の花：カノコユリ

宗像市は全国でも珍しいカノコユリの自生地であることから、昭和56年に市の花として決定されました。

定期総会報告

生き生きと活躍できるセンターに

総会は、昨年度同様にコロナ感染症に伴う自粛対応のため、5月28日に出席者を制限して開催しました。会員のみなさまには事前に書面での議決とし、議決権行使書を提出していただきました。

センターは、今年度も理事会をはじめ、委員会等の活性化をはかり、高齢者の生きがいの充実と福祉の増進を図るとともに、活力ある地域社会づくりに寄与することを目的とした事業を行います。

なお、総会の結果を下記のとおりお知らせします。



..... 賛成多数で承認されました

定期総会:出席会員数(議決権行使書) 427名

- 第1号議案 令和2年度事業報告について
- 第2号議案 令和2年度決算報告及び監査報告について
- 第3号議案 役員の選任について
- 第4号議案 定款の一部改正について

互助会総会:出席会員数(議決権行使書) 431名

- 第1号議案 令和2年度事業報告について
- 第2号議案 令和2年度収支決算報告及び監査報告について
- 第3号議案 令和3年度事業計画(案)について
- 第4号議案 令和3年度収支予算(案)について
- 第5号議案 会員互助会会則の一部改正について
- 第6号議案 役員の選任(案)について

新役員の紹介

総会で新理事(役員)が承認されました。任期は2年です。センターの事業や予算、運営に関する重要な事項を審議します。

- | | | |
|---------------------------------|-----------|---|
| 理事 [知識経験者] 久芳昭文、花田亮、中谷光子 | [行政] 衣笠哲哉 | [会員] 近藤正敬、花田俊六、吉武壽、川原宏一、松尾敬治、玉井幸男、池田淳、深江有佳子 |
| 監事 [知識経験者] 野中潔 | | |
| [会員] 河野重信 | | |

センターには、事業を円滑に行うために各種委員会があります

◆安全・適正就業委員会

会員が健康で安全に働くことができるように、安全パトロールや講座等を行い、安全意識の高揚に取り組んでいます。

◆適正就業調整委員会

会員の就業が適正に行われるように審議しています。

◆広報委員会

年2回の広報紙で、センターの活動や会員の声などを掲載し、会員や市民に情報を提供しています。



新理事長
久芳 昭文

就任あいさつ

6月9日の臨時理事会で理事長に就任いたしました。

高齢化社会におけるシルバー人材センターへの期待と役割は、ますます高くなっている中、多様な就業開拓と会員確保がバランス良く車の両輪となるよう組織体制や情報発信などの充実に取り組んでいきたいと考えます。

会員のみなさまには、「自主・自立・共働・共助」の理念のもと、安全安心な就業を優先し、健康に留意され、明るく元気にがんばっていただきますとともに活気あるセンターづくりにご協力いただきますようお願いいたします。



前理事長
遠矢 修

退任あいさつ

在任中はご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございました。みなさまのお蔭をもちまして、何とか職務を全うすることができましたことを心より感謝申し上げます。

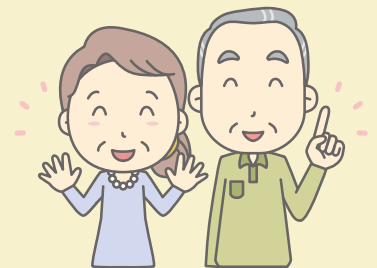
コロナ禍により、今後も厳しい社会状況下での経営が予想されますが、会員・役職員の英知を結集され、この難局を乗り越えて更なる発展をされますことを祈念いたします。

活動目標 会員も事務局も一体となって会員増加に取り組めます

ここ数年、会員の拡大を活動目標として掲げ取り組んできました。昨年からのコロナ感染予防や健康上の理由により退会される会員がみられます。

このような状況の中で、家事援助の依頼が急増し、このままでは受注調整を行うことにもなりかねません。今年度は、国の補助事業を活用し、就業開拓専門員を配置し、早急に新入会員増に取り組めます。事務局による活動はもちろんのこと会員のみなさんによる「くちコミ」、「一人一会員入会」活動のご協力をよろしくお願いします。

活動内容 広報活動、入会説明会の充実、一人一会員入会運動、女性組織の活性化



私たちの生きがい・
喜びを多くのシニアに
伝えましょう

職場訪問 ▶▶▶ 「タカモリファーム」

タカモリファームは、令和元年に起業したトマト農園で、市内野坂に1園と津屋崎に2園あります。野坂のハウスを管理されている高村芳季さん(市内在住・49歳)を訪ねました。



高村芳季さん

トマトの周年栽培で年間を通して生産・供給

農家の設備を受け継ぎ、トマトの周年栽培を始めました。

ハウスは1.3畧あり、水耕栽培で育てています。この栽培は気候に左右されず、肥料のばらつきも少なく管理がしやすいです。と言っても一番気を付けるのが害虫と病気なのでいつも目を凝らして見守っています。

シルバーさんも担い手

野坂の農園には、社員3人とパート20人が働いています。8月以外は、毎日収穫し、市場やスーパーに出荷しています。シルバーさんには4月から6月の繁忙期に、収穫作業や箱詰め、葉っぱ取りの作業などをお願いしています。真面目にやってもらい、急にお休みされることもないので、生き物相手の仕事ですから非常に助かっています。

🍅 タカモリファームのトマトは、市内「かのこの里」と「道の駅」で販売されています。

早朝の仕事は健康の源

朝7時からの仕事なので、早寝早起きです。朝のヒンヤリした空気で気持ちも引き締まって出発します。ハウスに入ると、黙々とトマトを収穫。ハウスの中は、夏場は30度を超え、帰り際は汗びっしょりになりますが爽快です。

トマトから元気をもらう

この仕事は、土いじりが好きだからできることかと思います。正直、年齢的にも腰や足に負担がくることもありますが、真っ赤なトマトから元気をもらって復活します!!



左から蘭文子さん、野口レイ子さん、不動保子さん

仕事で生活の張り

仕事に行く日はスイッチが入り、家事の段取りも良く、計画的に動くので無駄に過ごす時間などありません。仕事で健康にもなるし、生活にも張りがあり、ありがたいです。

ホッとほろりな話

コロナ禍のなかでも、こころワクワク♡

知り合いのご主人がケガで入院されました。コロナで病院の見舞いは制限。ご主人が携帯電話を持たない主義で詳細な状況も分からず、心配は募るばかりです。そこで手紙のやり取りが始まったそうです。「手紙もいいっちゃが。なんかワクワクするよね。」と嬉しそうに話される奥さん。

メールで事を済ませるこの時代に、お互いのことを思い浮かべながら書かれる手紙にホッとなものを感じました。私も感化され夫に感謝の手紙を書きました。それを読んだ夫は、照れ笑い。(60代・女性)

※みなさまからの投稿をお待ちしています。

令和2年10月29日(火)

そば打ち講習会



メイトムで開催した講習会には、14人が参加しました。そのうち男性は10人。「こね方は、猫の手のように丸めて、伸ばし方は麺棒を転がすように」と先生から教えていただきますが簡単にはいきません。難しい!

奮闘した後の試食会では、手打ちそばの味を堪能しました。初めての体験でしたが楽しく受講ができ、こういう催しがあればまた参加したいとの声もありました。

感謝の気持ちが届きました



赤間小学校や玄海小学校の子どもたちから、放課後の校内消毒に従事する会員へ感謝のメッセージが届きました。「ありがとう」のことばと共に、一カ所一カ所丁寧にされる作業への安心感も書かれていました。

感謝のメッセージは、事務所に掲示していますのでご覧ください。

市内の小中学校の消毒は、昨年7月から放課後に行われています。

麻雀で頭の体操

昨年10月から、麻雀クラブが朝野公民館で始まりました。コロナ禍でマスク着用、手や麻雀パイの消毒、換気をしっかり行っている開催です。

発起人は、朝部宮子さん(家事援助班)。地域の人から「何かサークル活動を考えてほしいよ。」と話がありました。朝部さんは、前住地では公民館で開催される麻雀クラブに行き、楽しんでいました。それで迷わずにこれだ!と思い、役員さんに相談したところクラブ設立が快諾されました。

麻雀はパイの組み合わせを考えたり、点数を計算するなど脳活には持ってこいの遊びです。何十年ぶりに麻雀をした70代の参加者から「頭がスッキリしたよ」との声に、朝部さんは「これなんだよね。」とニッコリ。静かな公民館にパイの音と遠慮がちな会話が聞こえます。緊急事態宣言中、クラブは休会です。



湯川山 471m

孔大寺山 499m

山を楽しむ

8月11日は、山に親しみ、山の恩恵に感謝する、国民の祝日「山の日」です。市内には、低山と言われる比較的登りやすい山がいくつもあります。今回、山を親しむ人に話を聞きました。みなさんも山を訪ね、魅力を探ってみませんか？



木々の中に、いろんな触れ合いがある

人との出会いもいいもの

城山には常連の登山客がいて、毎日多くの人々が登っています。早朝登山者、四塚を縦走する人、休日には子どもさんや若い人たちの姿が目立ちます。頂上に着くとまず誰もが海の方を見ます。「今日は沖ノ島が見えた!」と。見えればラッキー!

自然をたっぷり楽しめる

山の魅力は、四季折々に植物や鳥に出会えることです。時季はとっくに過ぎましたが城山にはたくさんの椿があり、頂上まで赤い花の落下が続き、とてもきれいです。頂上の小屋の側の椿には、蜜を吸いに来たメジロの群れが飛び交っているときもあります。同時期、ソウシチョウという鳥の話題で賑わいます。特定外来種で、全く人を怖れずかわいいです。傍で見かけるのは運次第です。

林田芙美江さん(須恵在住)



城山で撮ったイチオシ写真

四塚連山を縦走していたという松本ケイ子さん(家事援助班)から写真が届きました。

ウスキキノガサタケ(黄)



夏から秋にかけて見られます。高さ10~20cm。華麗な姿はキノコの女王にたとえられ、卵の殻を破ってから茎は3~4時間で15cm位になり、それからマントを垂らす早さはドラマチック。絶滅危惧種。
*むなかた電子博物館から抜粋

マムシ草



花の形が蛇が鎌首をもたげているように見え、茎の模様がマムシの皮膚の色に似ていることから名前がついたそうです。
*有毒



金山 317m

城山 369m

写真撮影
木部孝幸さん(管理2班)

山の高さは？

宗像市は三方を山に囲まれた盆地の地形を成し、市東部にある標高が高く連なった山々は、四塚連山と呼ばれています。麓から見て高さが400メートル前後の山と言うことは想像できますが、それぞれの高さは憶えにくい。そこで数字から少し考えてみました。

▲城山は369m。これは3の倍数になっていくので憶えやすい。

つた が たけ

名前から分かる通り、最後の宗像大宮司である80代氏貞が作り直した山城で、当時の名は蔦ヶ岳城と言います。

▲孔大寺山は、大台の500mにわずか1m足りない499m。

▲湯川山は471m。山頂からの玄界灘眺望は絶景である。

▲金山は317m。昔、金脈があった。湯川山と「71⇒17」の関係。

こういった数値の工夫で覚えていくのもおもしろい。頭の体操にもなりますよ。

帆足賢一さん(管理3班)

山があるから登る？

高校時代から山歩きをしていました。北海道の羊蹄山をはじめ駒ヶ岳など結構登りました。30代で事故を起こして山から離れていましたが、50代になると体力が衰えてきたので再起して近郊の山を登りはじめました。今は、「山と渓谷」という雑誌に紹介されている九州の山に挑んでいます。



お姫山(宮崎県)山頂で

山は平地と違いガスが発生したり急に大雨が降ったりして不順です。引き際が大事ななと思い、無理はしません。山頂での滞在は10分ほど。何も考えずに無心で登っています。山は、私にとって離れられない存在です。

井手晋策さん(学校管理班)

注意して登りましょう

▲登る前に、健康状態やコース、天候などを確認して、自分に合った計画を立てましょう。

▲歩く時間や天候に合わせて服装や持ち物などを準備しましょう。

▲トイレの場所を確認しておきましょう。

安全・適正就業委員会の報告

令和2年度の事故発生状況は下表のとおりです。

	令和2年度	令和元年度
傷害事故	5 件	3 件
物損事故	5 件	12 件
計	10 件	15 件

班別で見ると、傷害：(草刈班2件、学校管理班1件、管理1班1件、家事援助班1件)、物損：(草刈班2件、剪定班3件)です。

会員のみなさんのご理解とご協力により、前年度に比べると減少しました。梅雨や猛暑の中での仕事となりますので、より一層注意をして、事故^{ゼロ}を目指していきましょう!

気をゆるめないでコロナウイルス感染予防対策をしましょう

コロナウイルス感染が、未だに落ち着きをみせない状況下にあります。また、全国的に変異ウイルスも発生しており、感染率が高く、重症化しやすいと言われています。

ワクチン接種も始まりましたが気をゆるめないで対策を行いきましょう。

- 健康チェック
- こまめな手洗いとうがい
- マスクの着用
- 三密（密閉、密集、密接）を避ける



本格的な夏に向けて、熱中症予防を

コロナ感染予防と熱中症予防で大変ですが、予防方法を知って夏を乗り切りましょう。

- 暑さを避けましょう（涼しい服装、部屋の温度を調整）
- こまめに水分補給をしましょう
- 屋外で人と十分な距離を確保できるときは、マスクをはずしましょう

ボランティア活動

毎年、ボランティア活動に参加していただきありがとうございます。長年の参加は、地域に根差した活動となっています。今年もまた環境整備にご協力よろしくお願いします。

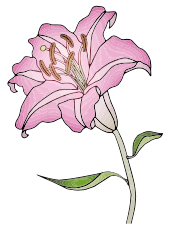


さつき松原の木々は元気に育っています

季節の花 カノコユリ

カノコユリは、7月下旬から8月上旬に開花します。

山田ホタルの里公園や釈迦院広場、センターの花壇にも植栽されています。



編集後記

コロナ禍…今、何をやるにも何を考えるにもついて回るのがこの言葉。人とのふれあいこそ人の社会のはずが、3密防止で楽しみだった卓球や麻雀、飲み会など、人との接触が全て否定されてしまったような昨今。

それでも私たち広報委員会は、感染防止措置を取りながら、よりよい紙面づくりに活発な意見を交わしました。表紙の題材、働く仲間の紹介、むなかたの自然紹介などを委員の意見により取り上げ、今号は宗像の市の花“カノコユリ”となりました。「いやあ、良い表紙になった」と自画自賛です。

令和元年度から仰せつかった広報委員長の大役を微力ながら、委員のみなさんの絶大なるご協力により大過なく終えることができました。多謝

会員のみなさまにもご愛読いただきありがとうございました。

広報委員長 馬場毅